

### 受益者の皆様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「DC アクティブ バリュー オープン」は、2022年2月28日に第20期決算を行いました。

当ファンドは「アクティブ バリュー マザーファンド」を通じて、わが国の株式に投資し、信託財産の長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。当作成対象期間につきましてもそれに沿った運用を行いました。

ここに運用状況をご報告申し上げます。

今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

## 交付運用報告書

# DC アクティブ バリュー オープン 愛称:DCアクシア 【確定拠出年金専用ファンド】

商品分類(追加型投信/国内/株式)

第20期(決算日 2022年2月28日)  
作成対象期間: 2021年3月2日~2022年2月28日

第20期末 (2022年2月28日)	
基準価額	37,627円
純資産総額	2,342百万円
第20期	
騰落率	5.8%
分配金合計	0円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当ファンドは、約款において運用報告書(全体版)を電子交付することが定められています。運用報告書(全体版)については下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

#### <閲覧方法>

右記URL⇒ファンド情報⇒当ファンド名を選択⇒各種資料のダウンロード⇒「運用報告書(全体版)」を選択



**T&Dアセットマネジメント株式会社**

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

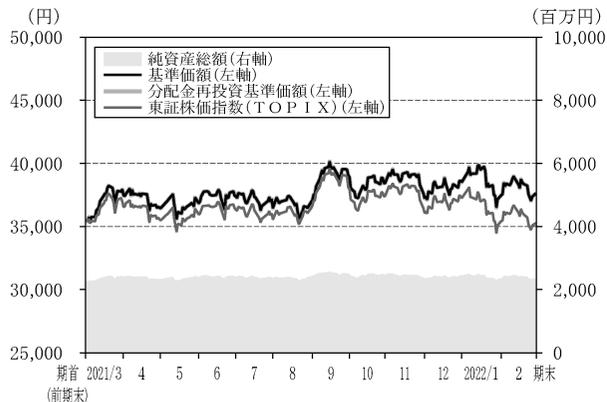
お問い合わせ先

商品開発部 03-6722-4812

(受付時間: 営業日の午前9時~午後5時)

<https://www.tdasstet.co.jp/>

## 基準価額等の推移



第20期首：35,567円

第20期末：37,627円(既払分配金0円)

騰落率：5.8%(分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首(2021年3月1日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは東証株価指数(TOPIX)【出所：東京証券取引所】です。

## 基準価額の主な変動要因

マザーファンドを通じて実質的に国内株式に投資しており、マザーファンドの組入銘柄の株価変動が基準価額の主な変動要因となります。期中の基準価額(分配金再投資ベース)は、業種配分効果や銘柄選択効果が奏功し上昇しました。

### ■組入ファンドの当期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
アクティブ バリュ어 マザーファンド	7.1%

\* 東証株価指数(TOPIX)とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

## 1 万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2021/3/2～2022/2/28		
	金額	比率	
平均基準価額	37,480円		期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社)  (受託会社)	423円 (238) (144)  (41)	1.130% (0.636) (0.384)  (0.110)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料  (株式)	18  (18)	0.049  (0.049)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用  (監査費用)	4  (4)	0.011  (0.011)	(c) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	445	1.190	

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

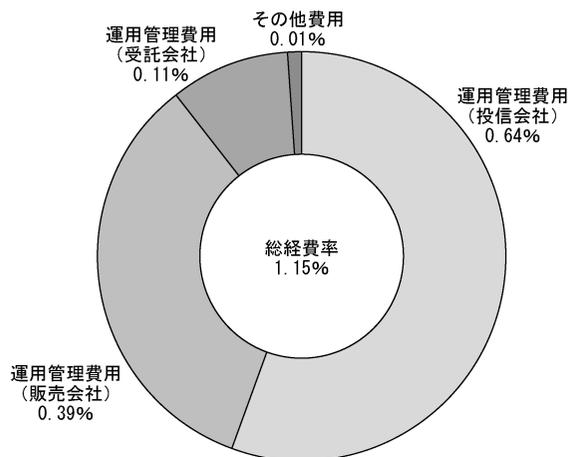
(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

### (参考情報)

#### ■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は、1.15%です。



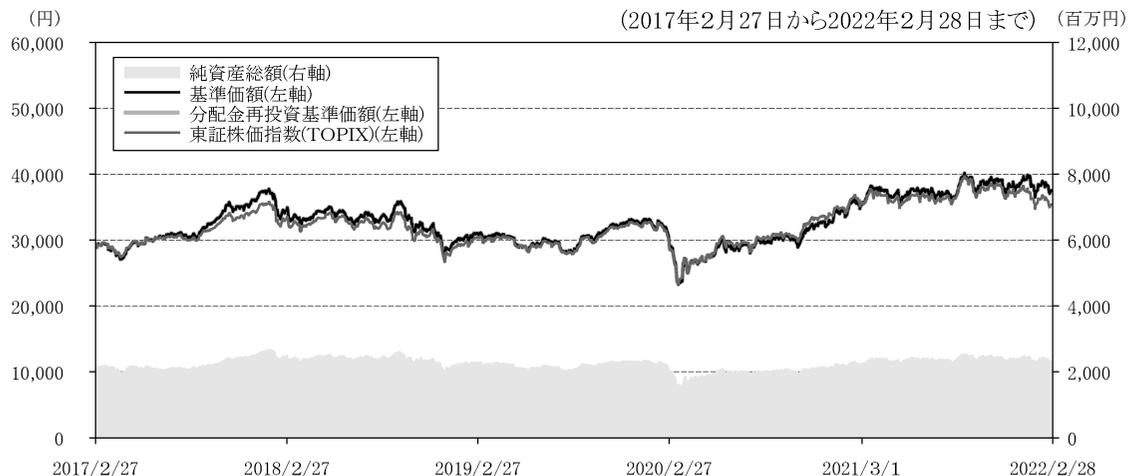
(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、作成期首(2017年2月27日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2017年2月27日 期初	2018年2月27日 決算日	2019年2月27日 決算日	2020年2月27日 決算日	2021年3月1日 決算日	2022年2月28日 決算日
基準価額(分配落) (円)	28,819	34,950	31,037	29,923	35,567	37,627
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	—	21.3	△ 11.2	△ 3.6	18.9	5.8
東証株価指数(TOPIX)騰落率(%)	—	16.7	△ 9.5	△ 3.2	21.3	△ 0.8
純資産総額 (百万円)	2,129	2,527	2,309	2,108	2,271	2,342

## 投資環境

---

### ■ 国内株式市況

当期の国内株式市場はわずかに下落しました。米国での巨額の追加経済対策への期待や、F R B (米連邦準備制度理事会)議長による超緩和的金融政策の長期継続示唆、パンデミック収束への期待等から2021年3月半ばにかけて上昇しました。その後は、米国において金融緩和縮小が意識されたこと、新型コロナウイルス変異株のデルタ株による国内外での感染再拡大から景気悪化懸念が高まり軟調な展開が続きました。9月に入ると、菅首相の自民党総裁選への出馬見送りが報道され、政局の不透明感払拭を期待した買いが株価を押し上げましたが、中国不動産市場の債務問題や米長期金利上昇に対する警戒感等が強まると、一転して上昇分を吐き出す動きとなりました。年が明けると、F O M C (米連邦公開市場委員会)議事録の開示を契機に利上げや資産圧縮が早期に進むとの観測から米長期金利が上昇し、新型コロナウイルス変異株のオミクロン株の感染拡大やウクライナの地政学リスクも重荷となったことで下落基調となりました。

## 当該投資信託のポートフォリオ

---

### ■ 当ファンド

期を通じて「アクティブ バリュウ マザーファンド」を高位に組み入れました。

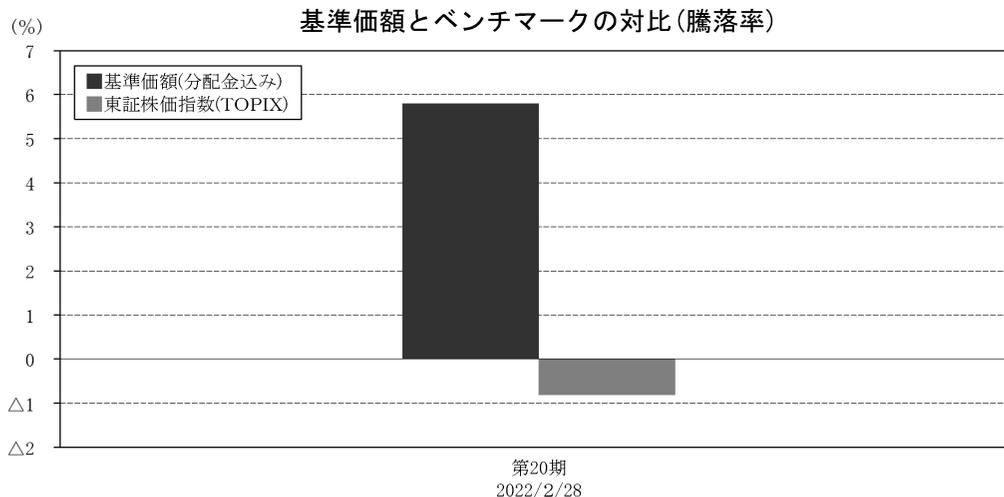
### ■ アクティブ バリュウ マザーファンド

銘柄選択にあたっては、将来的な企業価値拡大が期待できる企業へ適正価格で投資を行いました。世界的に景気先行き不透明感が高まる中、生産回復の恩恵が期待できる自動車関連やD X (デジタルトランスフォーメーション)化の恩恵で需要増が期待できる I T 関連企業、デジタル化・E V (電気自動車)化の進展により需要拡大が見込まれる電子部品等に注目し投資を行いました。組入銘柄数は、概ね66~70銘柄で推移しました。

ベンチマークに対して組入比率の高い銘柄は、荏原製作所(機械)、T D K (電気機器)、日本電信電話(情報・通信業)、三菱商事(卸売業)、日立製作所(電気機器)等となりました。

(注) 文中の投資行動は、個別銘柄の売買等いかなる投資行動も推奨するものではありません。

## 当該投資信託のベンチマークとの差異



当ファンドの基準価額(分配金込み)は5.8%の上昇、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)は0.8%下落し、基準価額はベンチマークを6.6%上回りました。当ファンドは期を通じて「アクティブバリュー マザーファンド」を高位に組入れ、信託報酬部分を除くと、ほぼ同マザーファンドの運用成績と連動しました。

ベンチマークとマザーファンドの差異要因については、期中の業種配分効果はプラス要因、銘柄選択効果もプラス要因となりました。業種配分効果では、組入比率の高い海運業や輸送用機器の騰落率がベンチマークを上回ったことに加え、組入比率の低いサービス業の騰落率がベンチマークを下回ったこと等がプラス要因となりました。銘柄選択効果では、日本郵船(海運業)、荏原製作所(機械)、日本製鋼所(機械)等の株価上昇が超過収益に寄与する一方、日本電気(電気機器)、TOYO TIRE(ゴム製品)、東海カーボン(ガラス・土石製品)の株価下落等がマイナスに影響しました。

## 分配金

1万口当たりの分配金(税込み)は商品性等を勘案し、見送らせていただきました。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項目	当期
	2021年3月2日 ～2022年2月28日
当期分配金	0
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	35,937

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

(注) 投資信託の計理上、翌期繰越分配対象額が基準価額を上回っている場合がありますが、基準価額を超える分配金をお支払いすることはありません。

## 今後の運用方針

### ■ 当ファンド

「アクティブ バリュウ マザーファンド」を高位に組入れる方針です。

### ■ アクティブ バリュウ マザーファンド

東証株価指数(TOPIX)をベンチマークとし、中長期的にこれを上回る投資成果を目指します。

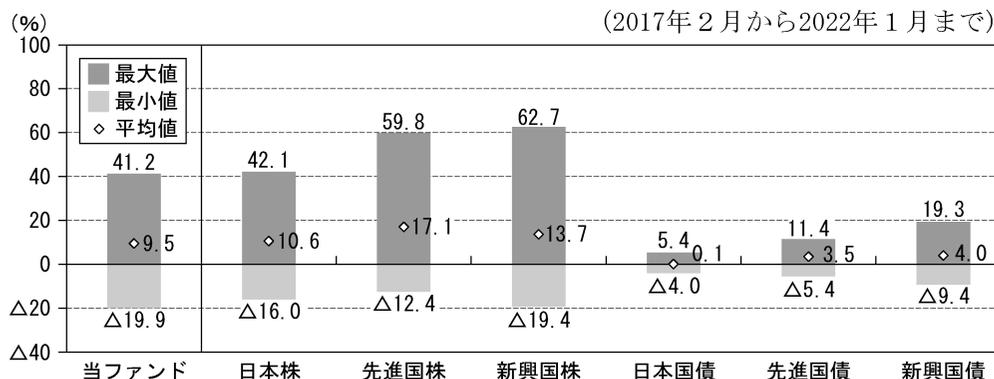
株式市場の「期待値の低い銘柄」の中から、業績モメンタム好転の可能性が高い銘柄の新規組入れ、ウェイトの引上げ、業績やバリュエーションの観点から投資魅力の低下した銘柄の売却やウェイト引下げを行い、ファンドのパフォーマンス向上に努めてまいります。

## 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	信託期間は原則無期限です。	
運用方針	信託財産の長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。	
主要運用対象	ベビーファンド	わが国の株式およびアクティブ バリュアー マザーファンドを主要投資対象とします。
	マザーファンド	わが国の株式を主要投資対象とします。
組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
分配方針	分配金額は、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

## 【参考情報】

### ■ 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) 上記は、2017年2月から2022年1月の5年間の各月末における直近1年間騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) 当ファンドおよび代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 騰落率は直近月末から60ヵ月遡って算出した結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

#### ○各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)<sup>※1</sup>

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)<sup>※2</sup>

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)<sup>※3</sup>

日本国債・・・NOMURA-BPI国債<sup>※4</sup>

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)<sup>※5</sup>

新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド(円ベース)<sup>※6</sup>

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

※1 東証株価指数(TOPIX)とは、東証第一部上場全銘柄の時価総額を基準時の時価総額で除して算出したわが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する一切の知的財産権その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。

※2 MSCIコクサイ・インデックスはMSCIが開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国の株式市場の動きを捉える指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。

※3 MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCIが開発した新興国の株式市場の動きを捉える株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCIに帰属します。

※4 NOMURA-BPI国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、日本で発行されている公募利付国債の市場全体を表す投資収益指数です。その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスを用いて行われるT&Dアセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

※5 FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

※6 JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドは、JPモルガン社が算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJPモルガン社に帰属します。

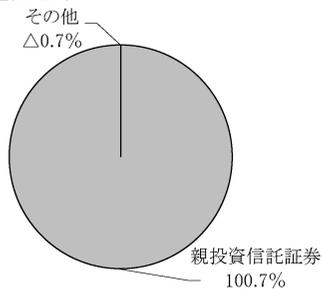
# 当該投資信託のデータ

## 当該ファンドの組入資産の内容

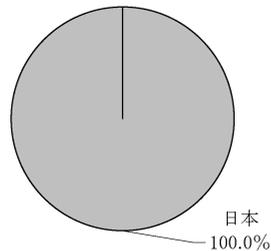
### ■ 組入(上位)ファンド(銘柄)

銘柄名	当期末
	2022年2月28日
	比率
アクティブ バリュース マザーファンド	100.7%
その他	△0.7

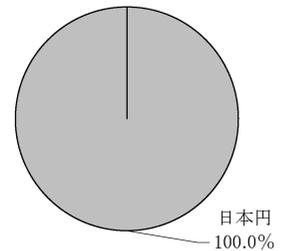
### ■ 資産別配分



### ■ 国別配分



### ■ 通貨別配分



(注) 組入(上位)ファンド(銘柄)および各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

(注) 設定・解約の影響により、マザーファンドの組入比率が一時的に100%を超え、その他の組入比率がマイナスとなる場合があります。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)をご覧ください。

## 純資産等

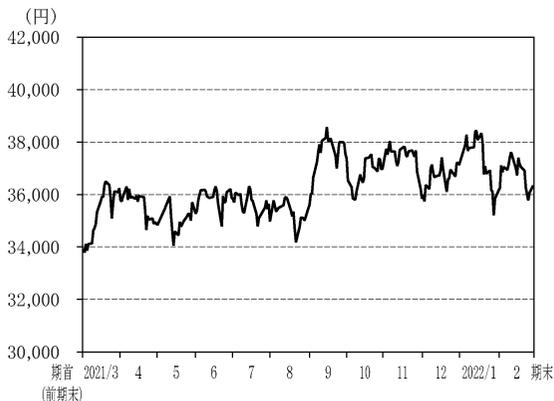
項目	当期末
	2022年2月28日
純資産総額	2,342,140,673円
受益権総口数	622,468,026口
1万口当たり基準価額	37,627円

(注) 期中における追加設定元本額は167,550,189円、同解約元本額は183,737,786円です。

## 組入上位ファンドの概要

アクティブ バリュースターファンド (2021年3月2日から2022年2月28日まで)

### ■ 基準価額の推移



### ■ 上位10銘柄

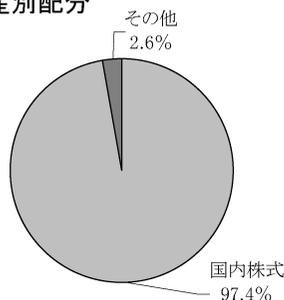
(組入銘柄数：67銘柄)

銘柄名	業種	比率
トヨタ自動車	輸送用機器	4.2%
ソニーグループ	電気機器	3.2
日本電信電話	情報・通信業	3.1
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.9
三菱商事	卸売業	2.8
日立製作所	電気機器	2.7
伊藤忠商事	卸売業	2.6
荏原製作所	機械	2.2
本田技研工業	輸送用機器	2.2
TDK	電気機器	2.2

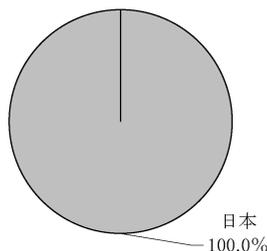
### ■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	2021/3/2～2022/2/28	
	金額	比率
平均基準価額	35,983円	
売買委託手数料 (株式)	18円 (18)	0.050% (0.050)
合計	18	0.050

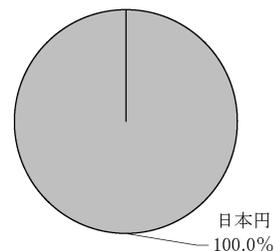
### ■ 資産別配分



### ■ 国別配分



### ■ 通貨別配分



(注) 組入銘柄および各配分のデータは直近の決算日現在のものです。

(注) 組入銘柄および各配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 国別配分は発行国を表示しております。

(注) 1万口当たりの費用明細は直近の決算期のものです。費用項目につきましては2ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

※詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。



T&Dアセットマネジメント株式会社